在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/07 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集１　「切り替える」とは「助走期間を大切にすること」　◆

湖陵祭も終わり、いよいよ夏休み間近です。湖陵祭への準備には、精一杯取り組めたでしょうか。うまくいったという満足感はすばらしいことですが、自分達なりにやれるだけはやったという充実感もまた、立派な財産です。うまく人と協力できなかった、もっとこうすれば良かったという悔いも、自分を見つめ直す勇気があるからこそ生まれてくるものです。自分のことを自分で見つめ直せない人は、後悔すらできない（反省すらできない）ので、それも財産になることでしょう。

さて、湖陵祭も終わり、「切り替えないと」と思っている生徒は多いと思います。湖陵祭に力を注いで、勉強がおろそかになっている人もいるのではないでしょうか。あるいは、夏休みに取り戻そうと「夏に期待する」生徒もいると思います。特に 3 年生に言いたいのですが、「夏休みにこれも、あれもがんばって」と期待して（意欲に燃えて）も、うまくいかないことの方が多いと思います。今まで、勉強する習慣がない状態で、いきなり、1 日 10 時間といってもうまくいくはずがありません。3 年生から夏休み後によく耳にするのは、「もっと夏休みに勉強できると思っていたのに・・・、もう夏休み終わっちゃった。」という言葉です。1・2 年生も同じです。

さて、どうすればいいでしょうか。面談等で生徒の話を聞いていて気付いたのですが、夏休みにいいジャンプができない人の共通点は、「助走がないこと」だと思います。体操選手などの例を出すまでもなく、いい跳躍をする選手は、ものすごい勢いで助走しますよね。勢いだけでなく歩数等も計算に入れて助走します。いずれにしても、助走が大切です。その助走期間にあたるのが、２４日（金）までの期間ではないでしょうか。今日、家庭学習が「ゼロ」で夏休みの飛躍もへったくれもありません。湖陵祭が終わった今、助走期間は始まっているのです。

しかし、いいジャンプは助走だけでは、成り立ちません。そうです。「踏み切り」です。これにあたるのが、学校で行っている「夏期講習」です。これが、踏み切りです。夏期講習が夏休みの最初に設定されているには訳があります。夏休みのがんばりを支える「踏み切り」の役割があるのです。助走と踏み切り、「夏休み前の全力勉強」と「夏期講習」で夏休みに大きくジャンプしてほしいですね。夏休みまで、数日しかありません。助走期間は短いですが、短いからといって、助走しても意味がないわけではありません。助走期間は、夏休みにしたいと考えている勉強をしてみることです。勉強量を増やしたいと思っている人は、今日から増やしてみることです。助走期間の全力勉強が飛躍をもたらす可能性を生むのです。

◆特集２　センター試験に向けて　日本史・地理　◆

先日、駿台予備学校が主催して、センター試験対策の研究会が開催されました。参加したお二人の先生のコメントを自分の勉強方法・内容・時間等に生かしてください。

□センター試験の日本史（前野先生）

2015 年度のセンター試験問題の傾向分析として、以下の説明がありました。これは 2015 年度に限った話ではありませんので、学習する際の参考にしてください。

（１）原始について
・旧石器～古墳時代について、それぞれの時代を特徴づける事項を把握すること。例えば、　金属器の使用は弥生時代、アニミズムは縄文時代など。
・さらに、弥生時代と古墳時代は、前期・中期・後期といった、更に細かい時期の特徴を　把握すること。例えば、稲作は石包丁・直播・穂首刈→鉄鎌・田植え・根刈など。古墳時代は古墳の埋葬品や石室の変化などを時期毎に捉えること。

（２）古代について
・文化史については教科書に掲載されている写真を中心に、時代を意識しながら確認すること。また、その際には「口絵」の写真のチェックを忘れないこと。

（３）中世について
・中世・近世は地図の問題が多い傾向にあります。聞いたことがあっても場所のイメージが乏しい受験生が多いとのこと。今年の例だと「シンガポール」の場所を選ばせる問題がありましたが、正答率は低かったようです。地名が出たら必ず地図で確認すること。

（４）近世について
・授業の軸になるのは「三大改革」ですが、正答率が低くなるのはその「合間」の時代の問題とのことです。特に時代の並び替えなどで正答率が低くなる傾向にあります。

（５）近代について
・2014 年度から人物史の問題が復活しています。（2015：林芙美子　2014：手塚治虫など）
・十五年戦争に関わる出題が多いです。教科書に掲載されている地図に注意を払いながら、国内での経済統制や社会の動きと連動させて学習しよう。戦争に関わる国内政策の出題が多いのは「文系理系問わず、それくらいの知識は持っているべきである」という出題サイドからのメッセージかも知れない。

（６）現代について
・90 年代初頭までは網羅すること（湾岸戦争まで）
・○○首相の時に△△があった、など細かい内容よりも、50 年代の出来事、60 年代の出来事、70 年代の出来事といった 10 年ごとの社会や傾向を捉えよう（90 年代まで）。

（７）注意事項！！

・「鉛筆を手放さない」
　問題を解く時に、キーワードを「囲う」癖をつけよう！問題を読みながら、です。

・「模試の解説にだまされるな」
　解説を読むと「1331 年に○○ということがあり…」と描いてあると、どうしても西暦で覚えたくなります。「年代よりも時期」で把握すること。

・「誤文の根拠を書いて力をｕｐ」
　四文選択で「内容は正しいが時期が違う」問題の正答率が下がる傾向にあります。リード文の時期をチェックしよう。誤文の根拠を書くことで、どこで勘違いしているか、自分を知ることができます。

（８）最後に…
　センター試験対策として、以下のことを強調されていました。

①何よりもまず教科書を読むこと
　・脚注やコラム、トピックスも見落とさずに。
②史料問題はまず、教科書に載っているものを理解する
　・未見史料も出ることがあるが、易問が多い。
　・図版が手がかりになることもある。本文にはなくても図を見たら気付くことも
③細かい年代にとらわれない
　・前近代は「○○世紀」の時間幅で捉える。
　・近代では戦争や憲法、条約改正関連を時系列で。
　　（例：日露戦争… 1904 ～ 05、日米通商航海条約：1911 など）
　・現代は 10 年ごとの把握。

④反復練習を怠らずに。
・選択肢の読み方を訓練すること。その中で、誤文の判定方法に慣れること。
・二文の正誤判定で「正・正」「誤・誤」を選ぶ問題になると、正答率が下がります。
その答えを選ぶ勇気を。
⑤リード文を「読む」習慣を
・リード文にヒントがある場合があります。解答の手がかりが隠れていることも。
・日頃から文章を読んで、「国語力」を up させること。

日常の授業では教科書を「読まされている」と思いますが、センター試験前には必ずもう一度、自分から「読む」ようにしましょう。また、講習等では話していますが、「誤文のどこが違うのか」の根拠を書くようにしましょう。鉛筆を持ちながら問題文、リード文を読むことも忘れずに。

□センター試験の地理Ｂ（本間先生）

１　平均点について

2012 年より、昨年（69.68）を除いて平均点は低く推移しており、2015 年は 60 点を下回る 58.59 点であった。問題数には変化がなく、４択問題が増加した（20 問→ 25 問）のに平均点がこれほど低下した要因としては、複数の資料（かつ、初見のもの）を整理する力、地誌や用語の深い理解を求める問題が増加した（最後の２択で細かな知識が必要）ことが考えられる。この傾向は今年度も変化がないものと考えられる。

２　今年度の入試に向けて

１）歴史的背景を踏まえて考察すること

植民地支配を受けた地域（東南アジア・南アジア・アフリカ）については、旧宗主国も含めての理解が必要である。旧宗主国が分からないと、宗教や言語なども理解出来ない場合がある。例としては　（2015 年地理 B 第 4 問　問６　下線部が正しいものを選ぶ）

③　ブラジルやベネズエラではムラートの割合が高い。これは、植民地時代にアフリカから多くの奴隷が連れてこられたからである。

この選択肢は正解で、ジャマイカやハイチが黒人国であることから予想はつくのではあるが、カリブ海地域では、当初先住民が奴隷とされたが、強制労働やヨーロッパ人が持ち込んだ病気により減少し、アフリカからの輸入に頼ったという歴史があることを知っておきたい。しかし、誤答の中では以下の選択肢を選んだ生徒が多かったようである。

④ペルーやボリビアでは先住民の割合が高い。これらの国々では、植民地支配を受ける以前からの宗教を信仰する住民が多数を占めている。

これを選択してしまう人は、旧宗主国と宗教・言語などの関係がうろ覚えになってしまっている人と思われます。

２）日本・世界の諸地域についてのイメージ・理解を深めよう

今からでも遅くはありませんので、興味関心をもって視野を広げてください。一週間に一度で良いので、ニュースや新聞を見ること（世界で何が起こっているのか見てみること）。今年は地域調査で北海道の問題が出題されたが、世界地誌（夏以降、講習でも扱います）はもちろん、日本地誌についての広い理解が必要である（西日本などイメージの薄い地域は特に）。日本地誌は資料集の一番最後にまとめられている。「日本なら出来るだろう」という甘い考えは捨てること。ちなみに日本に関する問題は 2015 年で 10 問である。

３）複数の統計から判断する

受験生が苦手とする問題のタイプの１つです。

（2015 年地理Ｂ　第５問　問 1）

人々の健康を取りまく状況は，生活習慣や医療制度など国により異なる。次の表1は，いくつかの国における20歳以上の人口に占める肥満*の人の割合，医療費に占める公的支出の割合，人口1,000人当たりの病床数を示したものであり，①～④は，アメリカ合衆国，アラブ首長国連邦，デンマーク，フィリピンのいずれかである。アラブ首長国連邦に該当するものを，表1中の①～④のうちから一つ選べ。

*体重[kg]を身長[m]の2乗で割って算出される値が30以上の状態。

表　1

	20歳以上の人口に占める肥満の人の割合[%]	医療費に占める公的支出の割合[%]	人口1,000人当たりの病床数[床]
①	33.7	74.4	1.9
②	31.8	45.9	3.0
③	16.2	85.2	3.5
④	6.4	33.3	0.5

統計年次は，20歳以上の人口に占める肥満の人の割合が2008年，医療費に占める公的支出の割合が2011年，人口1,000人当たりの病床数が2008年または2009年。

肥満の人の割合だけではなく、公的支出の割合（アメリカは保険は個人なので公的支出の割合低い）や病床数のデータも丁寧に見なければなりません。複数の知識を使い、多角的にとらえる力が地理の試験では重要です。一問一答ではない物の見方をするように心がけましょう。因みに UAE は①です。

４）地図の活用・地図の知識や技能について再確認する

新課程で重視された項目に「様々な地図と地理的技能」という項目があります。今年度模試を受けた３年生は、地図に関する問題が入っていたことを覚えていることと思います。また、２年生の進研模試では断面図を描く問題もありましたが、覚えているでしょうか。センター試験では長らく図法は出題されていませんので、確認をしておく必要があります。２年生の時に学習した地図の歴史、図法（メルカトル・正距方位・サンソン・モルワイデ・グード）とその特徴、統計地図、ＧＩＳなどの項目について、しっかりと確認して下さい。地形図の読み取りは新課程以前より必ず出題されていますのでもちろん必須となります（絶対に取れる所です）。

３　おわりに

以上、新課程の入試に向けた注意点を述べたが、大きく傾向が変わることは無さそうである。まずは毎回の授業をしっかりと受けて欲しいこと、講習などの機会を活用することが大切と考えます。また、解答の理由付けは大切です。なぜ正しいのか、なぜ誤りなのか、答えだけを覚えるだけではなく、深い理解を積み重ねることが必要です。